

「ちばエコ農産物」栽培のために!

(品目別栽培カード 13)



食用とうもろこし・トンネル栽培

千葉県農林水産部

1 栽培基準

食用とうもろこし・トンネル栽培における栽培基準は、化学合成農薬使用成分回数3回以下、化学肥料使用量(窒素成分)17kg/10a以下です。また、堆肥の施用は、3,500kg/10aが目安量とされています。(表1)



▲ 食用とうもろこし

表1 「ちばエコ農産物」栽培基準における農薬の上限回数と窒素成分の上限量
(平成18年4月現在)

区 分	上 限 量		堆肥施用の目安量 (kg/10a)
	化学合成農薬使用回数 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	
トンネル栽培	3	17	3,500

2 栽培基準達成のポイントと考え方

1 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した農薬散布例を表2に示します。化学合成農薬の使用成分回数は3回以内なので、殺虫剤を主として、効果の高い農薬を適期に、かつ、丁寧に散布することが大切となります。アワノメイガ及びオオタバコガは収量と品質に及ぼす影響が大きいので、雄穂抽出直前と絹糸抽出時の2回の防除を基本とし、確実に散布します。また、アブラムシ類の被害も多いので、発生状況をよく観察し、初期の段階で防除します。

表2に示した以外の農薬では、オオタバコガにデルフィン顆粒水和剤（化学合成農薬に含めない）、アブラムシ類にオルトラン水和剤、アドマイヤー顆粒水和剤及びアドマイヤーフロアブルなどが登録されています。

病害では、すす紋病及び紋枯病が問題となりますが、虫害に比べると発生が少ないので予防的な殺菌剤の散布は行いません。ただし、圃場をよく観察し、発生が認められた場合には初期の段階で、すす紋病にはトリフミン水和剤2,000倍液、紋枯病にはリブレックス水和剤1,500倍液を散布します。

表2 食用とうもろこしトンネル栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

散布時期	生育段階	農薬名	使用倍率	収穫前使用日数	対象病害虫
5月上～中旬	雄穂抽出期	バダンSG水溶剤	1,000	21	アワノメイガ
5月中～下旬	絹糸抽出期	モスピラン水溶剤 アフーム乳剤	2,000～4,000 1,000～2,000	14 3	アブラムシ類 オオタバコガ
6月上旬	子実肥大初期	※ゼンターリ顆粒水和剤	1,000	前日	オオタバコガ

注)※印の薬剤は、化学合成農薬に含めない農薬



▲ 四方換気を行った直後のトンネル管理

2 施肥(堆肥と有機質肥料の施用)

施肥事例を表3に示します。基肥窒素は、有機アグレット088号及びなたね油かすなどの有機質肥料で代替します。追肥にはNKC6化成を2回に分けて施用し、追肥を含めた窒素、りん酸及び加里の各成分施用量は、いずれも30kg/10aとします。このうち、化学肥料施用量(窒素成分)は16.8kg/10aとなります。堆肥は牛ふん粉殻堆肥を10a当たり3トン施用します。施肥量は、各圃場ごとに土壌診断に基づいて決めることをお勧めします。

表3 食用とうもろこしトンネル栽培の
「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
	窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥等 牛ふんもみから堆肥				3,000			
基肥							
有機アグレット088号	10.0 (4.9)	8.0	8.0	200.0	20.0 (9.8)	16.2	16.0
なたね油かす	5.0	2.0	1.0	60.0	3.0	1.2	0.6
苦土石灰				80.0			
苦土重焼りん	0.0	35.0	0.0	36.6		12.8	
硫酸加里	0.0	0.0	50.0	12.8			6.4
基肥施用量					23.0 (9.8)	30.0	23.0
追肥							
NKC6化成	17.0 (17.0)	0.0	17.0	41.2	7.0 (7.0)		7.0
追肥施用量					7.0 (7.0)		7.0
総施用量					30.0 (16.8)	30.0	30.0

注1) ()内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量



▲ 雄穂の抽出し始めたとうもろこし



▲ 収穫期を迎えたとうもろこし

☆この「品目別栽培カード」に記載した農業使用は、平成19年度現地実証試験時点のものです。実際の農業使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農業使用基準を守って使用してください。

- 著 作 千葉県農林水産部担い手支援課
千葉県農林総合研究センター
- 編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
- 発行年月日 平成20年3月
- 内容についての問い合わせ先
千葉県農林総合研究センター TEL.043(291)9987
または各地域の農林振興センター